



～医療的ケア児・者コーディネーター養成研修を開催して～

三重県からの委託事業



当院は、三重県からの委託を受け、医療的ケア児・者が地域で安心して暮らしていけるよう、医療的ケア児・者に対する支援が適切に行える人材を養成することを目的として医療的ケア児・者コーディネーター養成研修を7月～9月(計6日間)に開催いたしました。36名の相談支援専門員、医療ソーシャルワーカー、看護師等の参加がありました。

毎年、医療的ケア児・者のご家族が安心して過ごせるようなような支援計画が必要であるか活発なディスカッション

が行われます。今年は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、対面での研修ではなく、オンラインでの開催となりました。どのような方法にすれば対面に近い形で学びができるかを考える貴重な機会となり、コミュニケーションの重要性を改めて実感しました。今回の研修での学びを、これからの地域における医療的ケア児・者のご家族の支援に少しでも役立てていただけたらうれしいです。(教育研修係長 沢口 夏季)



通所支援事業のひとコマ

秋まつり

新型コロナ感染症の影響もあり、世間では様々なイベントが中止になっています。それでも、通所支援では利用者の皆さんに少しでも残暑や秋の雰囲気を感じていただこうと、9月に「秋まつり」を開催しました。「まつり」といえば、皆さんもきっと楽しい遊びや雰囲気がいろいろと思いつくかと思えます。通所支援では、その中でも「的あて(ボーリング風?)」と「水風船つり」をしました。

的あては、ボーリングのようにボールを転がします。車椅子に乗っている利用者さんも安全にできるように、手元(車椅子)からの的(ピン)まで段ボールのレーンを作りました。的が倒れると鈴の綺麗な音色が聞こえます。「おいしい!!」「あと1本!!」「もう少し右だった」等の声に利用者さんも張り切っていました。

水風船つりは、たらいに入った水風船をつります。しかし、ただ釣るだけでは面白くない?!ということで、釣った風船には「あたり」や「はずれ」が書かれており、「つれた～!!」と喜んで、水風船をよ～く見てみると「はずれ」の文字に、とっても残念そうな様子の利用者さんもいました。



最後はみんなでゲーム参加賞として、「うちわ」と「花の種」をもらいました。花の種は、今年の夏にみんなで育てた向日葵から採れた種です。来年も素敵な向日葵が咲くといいなあとと思います。

通所支援ではこれからも3密を避けて、ソーシャルディスタンスに気を付けながら、楽しいイベントを計画していきたいと思えます♪

そして…、追加のご報告!! 以前のニュースレターでもお伝えしたかと思いますが、通所支援では「第5回こころの絵本大賞」にみんなの作品を応募していて、その審査結果が先日届きました。結果は…「選外」でした。残念!! それでも、参加賞に来年カレンダー(写真)を頂きました。カレンダーには、有難い言葉がたくさん書いてあり、心の洗濯をするチャンス?!と思っています。通所に掲示していますので、良かったら皆さんもご覧ください。

(主任児童指導員 丸澤 由美子)



異動のごあいさつ

(2020年10月1日付)

●小児科 日比 亨先生



こんにちは。10月1日より赴任しました日比 亨と申します。総合診療科の専攻医で、医師5年目になります。三重病院には専門研修の一環で、3ヶ月間小児科の勉強

をさせて頂いております。三重県志摩市出身で、三重大学を卒業後、三重県立志摩病院、三重県立一志病院など各地を巡りながら研修し、現在、総合診療科医として研鑽を積んでいます。スポーツ医学や東洋医学・漢方治療にも関心があり、将来的には志摩の病院・診療所で地域医療の担い手として頑張っていきたいと考えています。

これまでの研修では、御高齢の方を診療することが多かったものの、子供さんのケガや、かぜなどの一般的な病気への診療に当たることもあり、小児の特徴をとらえて診療にあたる重要性を痛感していました。今回、小児科の先生方に混ざって、小児科ならではのスキル、ノウハウを吸収させて頂きながら、微力ながらも皆様のお役に立てるよう励んでいく所存です。よろしくお願ひします。

写・真・で・紹・介

やまぼとキャラクター
情報コーナー information



みにきてね!